

ホー

Hoot

日	月	火	水	木	金	土
30	31	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	1	2	3

こんげつ もよお
今月の催し

はやすみ。

<u>ととけっこおはなし会</u> 0～3 さいむけ、えほん^てと手あそびのおはなし会	9 月 11 日(金) / 27 日(日) 10:30～10:50 【3F 視聴覚ホール】 ※27 日(日)は 1F 児童書コーナー
<u>まめまめわらべうたおはなし会</u> あかちゃん^{いっしょ}と一緒に、わらべうたであそびましょう	9 月 19 日(土) 10:30～10:50 【3F 視聴覚ホール】
<u>としょかんおはなし会</u> えほん^てと手あそびのおはなし会	9 月 26 日(土) 14:00～14:30 【3F 視聴覚ホール】
<u>子ども映画会</u> ギガントサウルス 4 ～ギガントとレースしよう～	9 月 12 日(土) 10:30～ 【3F 視聴覚ホール】 約44分(受付開始 10:00～)

にんぎょうげきだん 人形劇団 クラルテ 公演

日時：2026年 9月13日(日)

14:00～15:00

場所：3F 視聴覚ホール

定員：60 人（幼児・児童とその保護者）※事前申し込み

申込方法：9月1日(火) 10:00～

電話またはカウンターで受付 077-526-4600

★当日は利用券をお持ちください



にんぎょうげき「ポリチーノのけっこん」



にんぎょうげきかさじぞう

あたらしくはいったほん

かしだし^{ちゅう}中のときは「よやく」しておくことができます。

[やさしいえほん]



「ねこねこねこちゃん」

でくねいく／作 福音館書店（やさしい絵本 E15/ネ）

しろくろ、しましま、しろねこ、くろねこ…いろいろなねこちゃんが にゃあにゃあ こんにちは。

[えほん]



「アイスクリーム! にゅうにゅうさん」

乾栄里子／文 西村敏雄／絵 ひさかたチャイルド（E26/ア）
にゅうにゅうさんは もりのちかくでアイスクリームをうっています。でもアイスクリームは ちっともうれません。そこへ うさぎがやってきて…。

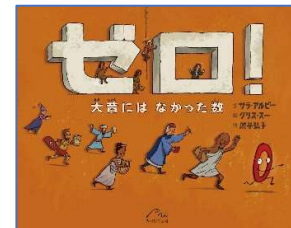


「ゆうびんしゃのあかぽん」

正高もとこ／作 鎌田歩／絵 岩崎書店（E26/ユ）

あかぽんは てがみをあつめたり にもつをとどけたりする ゆうびんしゃです。おおきなトラックにばかにされても、あめがふっても たいせつなにもつを、ていねいに はこびます。

[ちしきえほん]



「ゼロ! 大昔にはなかった数」

サラ・アルビー／文 クリス・スー／絵 渋谷弘子／訳
光村教育図書（ちしき絵本 E21/セ/4）

「何もない」ことを示す数「ゼロ」。でも目の前の物がいくつ数える時にゼロは使わない。だからゼロは1や2よりも、もっとあとになって発明された数なんだ。



「大あらしだ! ハリケーンがやってくる」

ジェイソン・チン／作 津田紗矢佳／訳 ウェザーマップ／監修
福音館書店（ちしき絵本 E29/オ/4）

海の上で生まれたあらしの卵は、ハリケーンとなって、北アメリカの小さな島に近づいてきます。ハリケーンの雨と風による被害を少なくするため、気象学者やハリケーン予報専門官は働いています。



「すごいぞカラス」

クリス・バターワース／作 オリヴィア・ロメネク・ギル／絵
松原始／訳 ひさかたチャイルド（ちしき絵本 E28/ス/4）

カラスの仲間は、街の中から高い山、砂漠まで、世界中にすんでいます。色も真っ黒ばかりでなく、カラフルな羽のカラスもいます。身近なようで「すごい」カラスの秘密に、美しいイラストでせまります。

[にほんのものがたり]



「成長する有機体」

歌代 朔／作 あかね書房（K913 ウタ）

職業体験で図書館へ行くことになった中学三年の普花。一緒に行くのは「本はほとんど読まない」という風間君とリモート登校の良輝君…しかも最初の仕事は『鬼のパンツ』！？

それぞれの事情を抱えた三人の成長の物語。



「星の台所」

落合由佳／著 講談社（K913 オチ）

『選択的不登校中』の星の家に、家庭教師として大学生の天ちゃん先生がやってきた。天ちゃん先生は算数は嫌いだし、全然先生っぽくない。でも作る料理はすごくおいしかった。そんなある日、星は不登校の原因ともなった秘密を、天ちゃん先生に知られてしまう。



「棚のタナカちゃん」

戸森しるこ／作 死後くん／絵 講談社（K913 トモ）

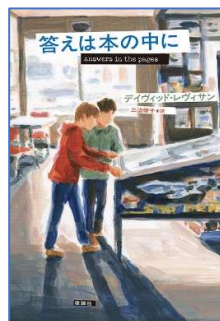
仕事帰りの帰り道、わたしは細い路地の奥に、古道具屋を見つけた。そこで出会ったのは、しゃべる棚の「タナカちゃん」。タナカちゃんがほしいなら、棚のっている帽子や貯金箱もセットだと言われたわたしは、それぞれの身の上話をきくことに。



「バードボーイ」

キャサリン・ブルートン／作 尾崎愛子／訳 偕成社（K933 フル）

母が亡くなり、ウィルは出会ったばかりのイアンおじさんと暮らすことになった。そこでウィルはアフガニスタンからきた少年オマールと友だちになり、絶滅危惧種のミサゴのひなを内緒で育てるが…。



「答えは本の中に」

デイヴィッド・レヴィサン／著
三辺律子／訳 理論社（K933 レウ）

小学5年のドノヴァンのクラスではみんなで「冒険者—アドベンチャラーズ」を読むことに。それは二人の男たちが悪の天才を止めるという冒険小説だったが、その本を読んだドノヴァンの母親は「この本は子どもに読ませるべきではない」と騒ぎ出した。

「フェザー 白い羽根をみつけた夏」

マノン・ステファン・ロス／作 野沢佳織／訳
静山社（K993 ステ）

最近のおばあちゃんは どうも様子がおかしい。今日はぼくと、80年くらい前に戦死した自分のお兄さんを間違えた。今まで自分からお兄さんの話なんてしたことなかったのに。

認知症が進んでいくおばあちゃんに、何かできることはないかと、ぼくはお兄さんのジョニーについて調べてみることにした。

[ちしき]



「未来へのたからもの」

陸前高田の文化財レスキュー物語

竹内早希子／著 ポプラ社 (K069)

2011 年、東日本大震災により陸前高田市立博物館はぜんかい全壊しました。そこに収蔵されていた文化財も津波で砂や泥に埋まってしまいました。学芸員の熊谷賢さんは町の復興のため、文化財の修復を決意します。

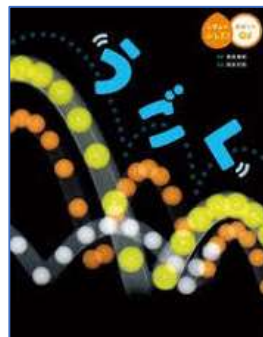


「死って、なんだろう？」

子どもたちからの 38^{しつもん}の質問

エレン・ダシー／作 アンナ・ファン・カンタベッラ／作
アンドレア・アンティノーリ／絵 小宮由／訳 (K114)

「死んだあとにはなにがあるの」など世界中の 5 才から 15 才までの子どもたちからの「死」についての 38 の質問に科学・心理・哲学の視点から答えます。



「うごく」

真貝寿明／指導 岡本好明／写真
フレール館 (K423)

ミニカーもボールも、なにもしないと、うごくことはありません。あたりまえのように思えるかもしれませんが、これは「かんせいのほうそく」という、かがくのほうそくです。「うごく」とはどういうことか、かんがえてみましょう。

「ここまでわかった！ 最新宇宙大図鑑」



DK 社／編
キャサリン・ブランデル／監修
ソフィー・アラン／著 ジョシュ・パーカー／著
イザベル・トーマス／著 日暮雅通／訳 河出書房新社 (K440)
月面探査「アルテミス計画」や火星探査、冥王星探査、ブラックホールまで宇宙研究の最新情報が美しい画像とともに紹介されています。

「プラスチックごみは なぜなくせない？」

玉木祥子／著 小坪遊／著 岩波書店
(K519)



以前から取り上げられているにもかかわらず、なかなか解決しないプラスチック問題。スーパーから農地、漁港、国際会議まで多くの取材を経てきた記者の玉木さんが、今後のプラスチックとの付き合い方について考えました。



「戦場に散ったアスリート」

大野益弘／著 ポプラ社 (K780)

今から八十年以上前、日本は戦争をしていました。多くの人が戦地に送られ、多くの人が亡くなりました。その中には、スポーツ分野で活躍したアスリートもたくさんいたのです。様々なスポーツ 11 人の物語。